

○ Chloramphenicol 1947 年 主に肝でグルクロン抱合を受け腎臓より排泄

広範囲の抗菌スペクトルを持ち(嫌気性菌にも有効)、我国では1974年ころまで最も広く使用された。
経口投与後の吸収率は高く、組織移行性もよく、髄液移行は炎症の有無にかかわらず血清中の約50%

〔副作用〕大

骨髄膜炎に(エ)効く。

gray baby syndrome

新生児 低体温と循環障害
肝機能が未熟なため、薬剤を不活性化できないためと推測されている。
筋注剤は小児に筋拘縮症を引き起こす。

再生不良性貧血 不可逆 or 可逆

アレルギー反応。1/21600の確立で起きる。
22%は投与中に、残りは数週間～数ヶ月後。
骨髄毒性にはもう1つ用量依存的な可逆性の骨髄抑制がある(ミトコンドリア蛋白の合成阻害)。
薬を止めれば治る。

〔作用機序〕

50S リボソームに結合。ホルミルメチオニン tRNA (fMet-tRNA) の fMet が P 部位から A 部位のアミノアシル tRNA に結合する peptidyl transferase の機能を阻害する。

〔適応〕

[Salmonella typhi]
[Salmonella paratyphi A]

Chloramphenicol 21% 以上
}} 我国では New quinolone

〔薬剤耐性機序〕

acetyl transferase による薬剤のアセチル化

○ Metronidazole 経口 肝代謝

抗原虫剤
寄生虫 バンコマイシンの前に。

偽膜性大腸炎に有効

Actinomyces, Propionibacterium を除く、嫌気性菌、例えば Bacteroides fragilis に有効

〔副作用〕

antabuse 反応: セフェムの N-メチルテトラゾルチオメチル基の関与がよく知られている。

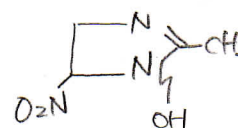
ワルファリンの代謝を抑制・・・出血傾向促進

中枢神経症状が稀に出る(痙攣など)

アルコール代謝を STOP させる

アセトアルデヒド蓄積 → 二日酔いの症状

×TR=グリン



antabuse 反応
に(関)わる。

テトラゾール

